

Graded Direct Method Teachers' Group

News Bulletin

第 22 号

英語教授法通信

1970年6月1日

編集・発行・英語教授法研究会 事務局 東京都世田谷区豪徳寺2-27-19 吉沢美穂方 TEL. (429) 5929

われわれにとって一般意味論

片桐 ユズル

地図は現地ではない、ということは一般意味論がくりかえし警告していることだ。とくに今のように急速にかわりつつある時代においては——つねに地図を修正して、柔軟な態度で現実に対していかなくてはならない。にもかかわらず、ひとは不安にさらされると、現地を見ようとせず、地図のみにしがみつ き、それどころか、地図だけの精密化をはかる。セクトのあらそいにはそういう傾向がある。ナショナリズムにはそういうところがある。

このように自分自身を貝ガラのようにとじこめ、不適応になっていくことこそ、コージブスキーが問題にしたことだった。一般意味論といえばS. I. ハヤカワで代表されて、いままではわれわれにうけとられていた。彼の「思考と行動における言語」が名著であるだけに、そしてコージブスキーの「科学と正気」が大著で近ずきがたいために、われわれは一般意味論の一面だけしか見てこなかった。

なぜ大多数のひとは肉体の動脈硬化がおこるより40年も50年もまえに、精神の動脈硬化になってしまっているのだろうか、とオールダス・ハクスレーはふしぎにおもっている。「大多数のひとは自分自身をカプセルにいれ、カキのようにとじこもり、これはときには大

学を卒業するよりまえにおこり、このようにして、すべての新しい考え、すべての新鮮な概念化された認識に対してバリケードを築いて人生をすごす。…ところが、うれしいことには、ここの一般意味論のひとたち——あのすばらしい小さな雑誌『エトセトラ』をだしているハヤカワとそのグループのひとたちは——概念的認識から、直接的そのものずばりの経験へ、意のままに行ったり来たりすることができるような訓練の方法を開発した…」

ハクスレーは世界をよくするには政治と経済のしくみをかえるだけではだめで、それとやらんで人間性をかえなくてはならない。その教育の一本の柱として意味論を特に重要視している。彼のユートピアをえがいた『島』はあまり知られていないが、死ぬ直前に出版された最後の小説で、そのパラという理想の島の教育は、ことばに対する不信をそそのかせ、もたせつづけることを、重要な目標としている。彼は兄のジュリアン・ハクスレーへの手紙で、ことばの魔術をあばく意味論家たちの国際会議が必要だといっている。また、意味論家のなかではコージブスキーには哲学がある、といって、いちばん高く評価している。

— それではコージブスキーの一般意味論について今まで紹介されていなかった部分は、たとえばコトバはモノではないということは、だれでもいうことだが、それを神経的反応として訓練する具体的方法が、欠かすことのできない部分をなしていた。このために、彼は気狂いあつかいされたり、ニセ科学の代表として槍玉にあげられたり、理論だけが学問だとおもっている学者たちからケイベツされてきた。しかし、これのためにこそ、彼はみなおされるべきだ。学問がもはや、世の中とかかわりをもたないで、その無責任さのため、世界は火をふいている。

コージブスキーはくりかえし、頭のかたくなったおとなよりも、子どもの意味論的訓練のほうがやさしいと述べている。じっさい、アメリカで一般意味論の功績をみとめるひとは、教育における貢献を指摘するひとが多い。ハスクレーは、意味論こそ各専門分野を統合し、科学的態度を実験室から日常生活へもちこめるようにするものだ、といっている。すでにハイスクール用としてはCatherine Min-

teer, WORDS AND WHAT THEY DO TO YOU (\$ 2.75) や、同じ著者のTEACHER'S GUIDE TO GENERAL SEMANTICS (\$ 1.50) があつたが、INSTANT PEP FOR LANGUAGE は幼稚園から小学6年生までに意味論をおしえる方法を示している。これはバージニア州アーリントンのフォート・マイヤー小学校の先生たちの実践から生れてきた。それからTHE WEE WISDOM RECORD by Leo and Helen Globus (\$ 3.50) は4~8才の子どもたちに意味論の原則を教える歌がはいっている。子どもだましというなかれ一頭でわかって、身につくためには、じっさいに体をつかうのが一番なことは、GDMの先生なら身にしみてごぞんじのはず。さらに新しくTEACHING GENERAL SEMANTICS ed. by Mary Morain (\$ 3.50) が出たはずである。これらの本やレコードは洋書屋を通して下記に注文すればよい。International Society for General Semantics
540 Powell Street
San Francisco, California 94108, U. S. A.

好評重版なる！

絵を使った文型練習

国際キリスト教大学講師 吉沢美穂著

英語入門期に視聴覚的な教授法が役立つことは論をまたないが、その効果的な用法は十分に研究されているとは言えない。本書の著者はハーバード大学のI・A・リチャーズ博士のもとで言語伝達の理論に基づいた英語教授法を学び、爾来十余年にわたる研究と実践を一冊にまとめた。ここに扱われた文法事項、語法、基本語は三百に及び、教科書の種類、学年に関係なく、ページを開けば絵を使った文型練習が得られる。練習の効果を高めるために初・中・上級別のワークブックを添えた。

中学校、高校、講習会、家庭での学習に最適

A5判函入(テキスト一冊
ワークブック三冊添付)

定価六五〇円

東京都千代田区神田錦町3-26 大修館書店 Tel(291)3961-5

The Mystery of Language Acquisition

高 原 脩

現代の所謂情報科学がその周辺の諸科学と不分離の関係にあるのと同様に、コトバの科学たる言語学も、他の関連諸科学との連合による研究の必要性が強く望まれる様になった。

特にChomskyによる変形生成理論の提唱により、中でも心理学及びそれに付随する隣接科学の知識の導入によって人間のコトバを統合的に研究しようとするPsycholinguisticsという分野が近年特に米国に於いて目覚ましい発展を遂げて来ている。

Psycholinguisticsの理論的基盤であるChomskyの理論は話手のCompetenceの理論であり、言語の音と意味とのintrinsic correlationを決めるrule systemを表わすものである。この理論のexplicitな研究によって従来のempiricist approachには言語構造のcomplexityを認識出来ない等の不備がある事が明らかにされた^①。即ち、この理論ではその最も基本的事実は言語のcreativityという事であり、それこそは人間の心のinnate competenceによって行われるという心理学的立場をとる。この意味から言語研究はbehavioristicではなく抽象的なmentalismである事を強調する。かゝる言語観が支配的になるに及んでその理論が心理学研究及び言語教育にも必然的に影響を及ぼす結果となった^②。従ってこの理論の立場ではPsycholinguistics研究の第一の目標はthe intrinsic organizationつまり、人間のcompetenceの解明にある。この事は同時に又言語習得に於ける人間言語共通の普遍文法を探索する事になる。従って人間に課せられた複雑な精神機能の一つであるコトバが如何に習得され、発達して行くかという事はmysteriousではあ

るが同時に極めて大切な問題であり、言語構造の正しい分析と理解は習得過程へのempiricalな研究に依存している為、この理論に基づくsyntax面を中心とした仮説の検証を目指す新たな研究が次々に行われている^③。

特に幼児が母国語を習得する過程が外国語を習得するそれと似ている（少くとも幼児期は同じsituationである為）という事は極めて興味深い。

比較的初期の実験研究として、Brown & Bellugi^④は27ヶ月と18ヶ月の二人の幼児の母国語である英語の習得過程の分析を行った結果(例)

Model utterance

He is going out
Paddy's brief case

Imitation by children

He go out
Paddy briefcase

の様にmodel文が長くなると子供のimitationにはreductionが行われ所謂“telegraphic speech”になるが、文法的signalであるmodelの語順は保たれていた。更に

Child's utterance

Baby high chair
Eve lunch

Expansion by model

Baby is in the high chair
Eve is having lunch

という様に子供の言語習得に大きな効果をもたらすmodel（主に母親）の側の教育的なexpansionが行われる。^⑤そして最後に最も困難なunderlying latent structureを発見して行く段階になる。又McNeill^⑥はこの様に就学前の子供によって無意識に規則的に行

われる習得過程は正に人間のinvention の一つであると述べ、corpus of speech →

LAD ^⑦ → grammar (output)

という仮説を設けて同様な実験を行った。特にイザナミと名付けた日本人の二才の女の子による後置語である日本語の主語の抽象概念を表わす「は」「が」の実験では、彼女は「が」の使用を100回正しく使用しているが、「は」は6回しか使わなかった。この事は「は」「が」共に文の主語を指すがそのCognitive implications が異なり、「が」に含まれているものだけに敏感であった為であるとしている。又Gleason^⑧は子供の言語習得は他の人の単なる模倣ではない例として、“I digged a hole” “The bell ringed” という誤文で行われている手掛を得る事が出来るし、小学1,2,3年生の一つの実験ではmice とgeese 等の絵を生徒に見せ (“This is a mouse and now there are two mice,” “What’s this?”) と一匹を指すと子供達は “a mouse” とい、“and what’s this?” と次に二匹指すと、特に一年生は “two mouse” と僅か一分前に正しい形を聞いた後で間違えて答えた。この例からもimitation というものは人々が思う程易しい事ではなく、子供をしてmouses という語を作らせるのはimitationよりも別の事柄であるという又一つevidenceを示した。又一年生の最もfrequentな1000wordsをテストしたところ次の事が判明している^⑨

(1) 或るnonsense animalや妙な事をしている人の絵とそれらについての幾つかの語を作った。

(例)  この一つの絵を見せ “This is a Wag” とい、次に二つ見せ “Now this is another one. There are two of them. There are two.” といわせた。Wagという語は未知の物であった為、単に記憶だけによるのであれば子供は答えなかった筈であった

が、総ての子供はかなりの確信をもって答えた。(2) 過去形のtenseも非常に似た様な状態で Verb + Past → V + / -d / という一般化が見られた。(3) -er suffix の代りに一つのCompoundにした。(4) 反応の形は年令や発達段階に関係しているが(例) birthday という語について4才児では物の名前が誕生日だから誕生日と呼ばれるが、5才児はプレゼントがもらえるからそう呼ばれると思い、6才児は少くともday が離れるのに気付いたという。これ等の実験は、4才児でも英語のwordsを扱う為のinternalized set of rulesを有している事を示しており、この事は英語のみならず他の自然言語にexposeされる子供にもその最も早いspeechに於てconfused inputの中から正しいcluesと間違えたものを選分けるuniversalな抽象的文法関係即ち、shared inborn capacityがある事実を検証したものであるといえよう。^⑩ 子供は言語本性としての母国語の構造を潜在的に持ち、その文法を作り出しているという事実が外国語習得教授に対してrelevanceを持ち得る点があるならば、sensit重視のGDMの基本的作業の一つとして既に目新しい事ではないが、Brownの実験にもあった如くexpansion変形が考えられる^⑪ しかし一方学習が単なる教師のサル真似に終る事のない様に、特に小学生でも高学年では或る程度知的理解の伴う英語構造の学習を行う事が必要であり、言語習得のprerequisiteとしてのDeep structureの習得を狙いとしたものである事が望ましい。即ち外国語学習に人間本来のuniqueなcapacityを利用する方法が必要であり、Robin Lakoff^⑫も構造言語学的な単なるdrillでは習得出来ない言語に於ける多くの事柄を学習者が意識的に学ぶように特にGrammaticalityの一つのfactorとなる文のpresuppositionと文の表面上の形をうまくmatch-upする様に正しい文の選択の条件を

説明し、学習者のperformanceに反映される誤りを正すのが教師の大切な役目であると述べ、下記の面で具体例をあげ興味深く説明している。

- 1) English: the articles, the past/perfect tense distinction, some/any distinction.^⑬
- 2) Japanese: honorific, prefixes & suffixes.
- 3) Spanish: 或る種のsubjunctive

McNeill の貢献はこれ迄の言語習得の研究からその理論を発展させた事であるが、彼が postulate した LAD も更に多くの実験から得られる evidence なくしては事実の説明をなし得るか否かを決めるのは極めて困難であり、“Why” or “How” of LA については今だ十分な解答が得られず groping in the darkness の段階である。しかし乍ら語学教師として大切な事は Every English teacher needs to learn about the present state of Linguistics. Every teacher needs to be able to follow developments in theory and description throughout his teaching career.^⑭ とある如く言語学上の貢献を最も有効な方法で他の disciplines のそれと連合する事であり、Linguistics と Psychology の両方の立場から LAD の構造と universal categories とを充分特徴づけるべき研究がなされねばならない。

① Chomsky, N. “Linguistic Theory,” Northeast Conference on the Teaching of Foreign Languages (1966) Also in Lester, M (ed.) Readings in Applied Transformational Grammar. (1970), P. 56.

② Chomsky は彼の言語理論を語学教育者としての立場から見るのは skeptical であるとし又、Carroll や Lamendella は変形理論そのものは the teaching of languages についての問題の答を提供するものではないが、心理学という分野との関連においてその理論的基盤は示唆的であると述べている。cf. Chomsky, op. cit., P52.,

Carroll, J. “Psychological Inquiry into Language Acquisition.” Lecture given at Osaka YMCA, Nov. 2, 1969 .
Lamendella, J. J., “On the Irrelevance of Transformational Grammar to Second Language Pedagogy.” Language Learning Vol. XIX, Nos. 3 & 4 (1969).

- ③ 1) Bloom, L. Language Development: Form and Function in Emerging Grammars. M. I. T. Research Mon. No. 59 (1970).
2) Chomsky, Carol, The Acquisition of Syntax of Children from 5 to 10 . M. I. T. Research Mon. No. 57 (1969).
3) Jakobovits, L. A. “Implications of Recent Psycholinguistic Developments for the Teaching of a Second Language,” “Language Learning Vol. XVIII, Nos. 1 & 2 (1968)
- 4) Menyuk, P. Sentence Children Use. M. I. T. Research Mon. No. 52, (1969).
5) Shipley, E. F. Smith, C. S. & Gleitmar, L. R. “A Study in the Acquisition of Language: Free Responses to Commands,” Language. Vol. 145, No. 2(part 1) , (1969) .
- ④ Bellugi, U. & Brown R., “Three Processes in the Child’s Acquisition of Syntax,” In E. H. Lenneberg (ed.) New Directions in the Study of Language. M. I. T. Press (1964).
- ⑤ Jakobson は「子供の創造性は無からの invention ではないがその borrowing も厳密な copying ではない」と述べている。cf. Jakobson, R., Child Language, Aphasic & Phonological Universals. Mouton, (1968), pp. 13-14.
- ⑥ McNeill, D., “The Creation of Language.” Discovery Vol. 27. No. 17. (1966).
- ⑦ Language Acquisition Device. これは如何なる自然言語をも acquire 可能なものである為 a theory of linguistic universals といえる。
- ⑧ Gleason, J. B. “Language Development in Early Childhood,” In J. Walden (ed.) Oral Language and Reading NCTE, (1969) pp. 15-29.

- ⑨ Gleason, J. B. "The Child's Learning of English Morphology," Word 14 (1958). pp. 150-177.
- ⑩ 子供によって internalize される最初の syntactic rule は optimization 又は 'Pirot-Open' Construction と呼ばれ, $S \rightarrow (P)+O$ で表わされる。これは, 子供の competence は大人文の直接の mimicry の結果ではなく, Class P. (比較的良く起る primitive grammatical class) と Class O (大抵の new words) の順序からなっている。cf. Jakobovits. Op. cit., King, R. Historical Linguistics & Transformational Grammar Prentice-Hall, 1969.
- ⑪ 子供が "Doggie bite" といえ, "Yes, he is biting, he will bite" という風に expand する事により適切な information を与える方法等。
- ⑫ Lakoff, Robin, "Transformational Grammar & Language Teaching" Language Learning Vol. XIX Nos. 1 & 2 (1969).
- ⑬ _____, "Some Reasons Why There Can't Be Any Some-Any RULE," Language Vol. 45 No. 3 (1969).
- ⑭ Marchwardt, A. H., (ed.) Language and Language Learning. NCTE (1968). P. 74

参 考 文 献

- Bellugi, U. & Brown, R. (eds.) The Acquisition of Language. Mongr. Soc. Res. Child Developm., 29, No. 92, 1964.
- _____, "Three Processes in the Child's Acquisition of Syntax," In E. H. Lenneberg (ed.) New Directions in the Study of Language. M. I. T. Press, 1964.
- Chomsky, N. "Linguistic Theory," Northeast Conference on the Teaching of Foreign Languages, 1966. In M. Lester (ed.) Readings in Applied Transformational Grammar. Holt, Rinehart & Winston, 1970.
- 藤岡外 (編) 「言語と人間」東海大学出版会 1970
- Gleason, J. B. "The Child's Learning of English Morphology," Word 14, 1958.

- _____, "Language Development in Early Childhood," In J. Walden (ed.) Oral Language & Reading. NCTE, 1969.
- 岩瀬外 「ことばの誕生—うぶ声から五才まで」日本放送出版協会 1968.
- Jakobovits, L. A. "Implications of Recent Psycholinguistic Developments for the Teaching of a Second Language," Language Learning. Vol. XVIII, Nos. 1 & 2, 1968.
- Jakobson, R. Child Language, Aphasia & Phonological Universals. Mouton. 1968.
- King, R. Historical Linguistics & Transformational Grammar. Prentice-Hall, 1969.
- Lakoff, R. "Transformational Grammar & Language Teaching," Language Learning. Vol. XIX, Nos. 1 & 2, 1969.
- _____, "Some Reasons Why There Can't Be Any Some-Any Rule." Language. Vol. 45, No. 3, 1969.
- Marchwardt, A. H. (ed.) Language & Language Learning. NCTE, 1968.
- McNeill, D. "The Creation of Language," Discovery. Vol. 27, No. 7, 1966.
- _____, "The Creation of Language by Children," In J. Lyons & R. J. Wales (eds.) Psycholinguistics. Papers. Edinburgh University Press, 1966.
- Menyuk, P. Sentence Children Use. M. I. T. Research Mon. No. 7. 1969.
- 村田孝次 「児童の言語発達」培風館 1970
- Shipley, E. F. Smith, C. S. & Gleitman, L. R. "A Study in the Acquisition of Language: Free Responses to Commands," Language. Vol. 45, No. 2 (Part 1), 1969.

英文を書くための辞書 Basic English: Writer's Japanese-English

Wordbook

F. J. ダニエルズ著

北星堂書店刊 A 5判 708頁 2,000円

いつだったか、まだ我々の会が、飯田橋のルーテル英語学校で、月例会をやっていた頃のある月に、細面のヒゲ面のイギリス人が、やって来て、講演をしてくれた。その人が、上記の辞書の著者ダニエルズ教授であった。私の記憶では、reading について教授の実践した方法で日本人に適しているやり方を教えてくれた。小さな紙片に、三行ほどの文だが、実に基本的な文がタイプしてあり、それを生徒にいわせて暗誦させるのだ といった話でイギリス人の practical な面に感心したものだ。あとになってから 彼がOgdenから Basic English を習い、以後専心この辞書の実現に努力されていたことを知った。

この辞書は全くカワツク辞書だ。まず第一に、日本の英語教育に永く経験のある、しかも日本語のよく出来るダニエルズというイギリス人が書いた和英辞典であるという点である。第二は、Basic English で徹頭徹尾貫かれている点である。

我々が英文を書く時 hang がいいか dangle がいいか、distinguish か discriminate か、というタグイの悩みはさておき、自分の書く英文は、果していいのかどうか、幼稚すぎはしないか？ この context で難しくないか？ この単語をここで使ってもいいのだろうか？ と思い悩むことがしばしばで、中学英語でもよく考えてみると、そ

のような疑問に出くわすことは多い。

所がこの辞書は Basic English の特徴が出て いわゆる感情の細かなニュアンスより sense — その文でいいたいコトは何かによりよく訳出されている。その源は、一つの見出し語に、多くの訳があることである。それを頭において、日本語で自分のいいかかったことを訳出の英語で検討して行くと、コレダッノと思い当るようになっていく。例えば、「失礼する」の訳の中に (say that) (one) is unable to come というのがあるが、これは「明日の会は失礼するよ」にピッタリあてはまる。「もう(おそいから)失礼するよ」なら (say that) (one) will have to go (be off) がそれに当る etc. etc. その語が使われる context に応じて訳語がちがうという例の SEN-SIT の考え方がここにある。もう一つの特徴は「一を見よ」という cross-reference が多いことで、ある表現の中の色々な語をひいて見てやると訳語に出くわすというハンザツさがないので、親切だといえる。

何と云っても、この辞書の最大の長所は、日本語と英語の一对一の訳ではなく、「この日本語の内容を、英語でどう伝えるか」に役立つことで、この辞書がもつ他の欠点を補い context とコトバの関係を考えさせてくれる。

(升 川 潔)

English Through Pictures, Books 1 and 2	¥ 360 each
First Workbook of English	¥ 360
First Steps in Reading English	¥ 360
Teachers' Handbook for English Through Pictures	¥ 400
Anglophone Records for English Through Pictures	¥10,000 each
Filmstrips for English Through Pictures, Series 1 and 2	¥17,000 each

(海外注文)

チャールズ・E・タトル商会

神田店 東京都千代田区神田神保町1-3

TEL. (291) 7071

高島屋店 東京都中央区日本橋高島屋

6階 TEL. (211) 5029

Graded Direct Method

Summer Seminar のお知らせ

- とき : 1970年8月14日(金)~18日(火)
ところ : 東山荘 (静岡県御殿場市東山)
講師 : 吉沢美穂 (ICU 講師・ハーバード大学言語研究所日本代表)
東山 永 (GDM鎌倉グループ代表)
片桐ユズル (松蔭女子大学助教授)
升川 潔 (東京女子大学短大部講師)
中郷安浩 (大阪市大講師 スピーチ・クリニック担当)
山田初裕 (都立王子工業教諭)
内容 : Graded Direct Method の理論と実態を、小学5.6年生クラスで実習したり討論しながら習得する。ほかにスピーチ・クリニック、レクリエーション、特別プログラム、etc。
資格 : 英語教育に熱意のある人ならどなたでも

費用 : 受講料 6,000円(申込金をふくむ)

宿泊料 7,000円(4泊食事付)

ほかにテキスト代

申込方法 : 申込金1,000円を同封して7月31日までに大阪市西区土佐堀2丁目12大阪YMCA英語学校GDM Seminar係まで申しこんでください。Tel. (06) 441-0892 ただし定員50人に達ししだいしめきります。

GDM会員で上記のセミナーに参加される方は、1970-71年度会費のみ免除(受講料・宿泊代、計12,400円となります)又すでにSummer Seminarを修了した方はAdvanced Courseに御申込下さい。(このコース参加者は受講料4,000円となり(計11,000円)但しクラスの編成は、事務局に御一任下さい。申込方法等は上記の通りです。

共催 : 英語教授法研究会
大阪YMCA英語教育研究所

GDM・にゆうず・れたあ

- 人口過密の中で、忙しくなるばかりの毎日だけど...やっとBulletin 22号が出来ました。
- Indiana からかえって来た高原 脩さんが、この号で新情報をヒロウしてくれている。多謝。Child languageへの関心はこれからも続く。
- 片桐ユズルさんは、相変わらずセメンバビ(?)の大活躍。ゴジブスキーを見直したとの事。
- 彼のいる関西は、大阪Y(土佐堀の)、豊中Y、神戸Yが、クラスを作って着々実績をあげている。が
- 東京も 月例会は、3月鎌倉グループとの合同(山田初裕さんの授業は、多彩でした)4月は久し振りに日大二高で月例会。
- 鎌倉での3月例会は、思わぬ副産物があつた。御大東山 永さんの率いる鎌倉勢(?)は着々実践家を出し、チームワークよく活動中。その例会では、GDMの理論をもっと研究しようという提案とreading material を自主制作しようという提案とが出て、早速実行に

移すことになった。ヤリマシヨ!

- 関西の例にならったかどうかは知らないが、長田順子さんは、東京武蔵野YMCAで、小・中学生のクラスを4月から始めた。ガンバッテネ
- ベテラン養田兵衛さんは、自分の学校も忙しいのに孤軍奮斗。品川中学の女子生徒に、GDMを実践してくれている。1月にはこの中学で例会をし、橘川剛一さんが、巧みに実演授業をした。剛一という名に似ず(?)暖かい人柄を感じさせた。
- 前の月の例会の様子を、短信の形で毎回刷ってフートーに入れ、東京支部の会員に出してくれているのは、天野武雄さん。東京のはずれ西多摩の都立秋川高校英語科にいる。
- 広告

Workbook の大きな版がほしい人は、升川 潔さんにいうといい。もとの大きな版(Wkbbk-I, Wkbbk-II 共に原価150円)が手に入る。特にWkbbk-IIは、中学生高学年、高校初級にいい。